翔生（しょうせい）

Symbol Logomark　これまで商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで親しみ易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の黄色（Young

YEG

発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業会館内
☎03-3283-7847
編集　広報委員会

平成7年（1995年）
3月1日号
通巻　第18号
（年2回　3月・11月発行）

Entrepreneurs　Group）の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野をもった経営者＝Youth, Energy, Generalist）を表しています。

ご・あ・い・さ・つ

行動こそ、YEGの使命

日本商工会議所　会頭　稲葉興作

全国各地の青年部の皆様方には、日頃から地域を支える青年経済人として熱意と使命感をもって商工会議所活動にご参画いただいており、厚くお礼申しあげます。

わが国は現在、戦後と著しの長期不況から徐々に回復に向けて動き出しており、新しい年を迎えて、今年こそは経済の再活性化を図ろうと決意を固めていた矢先、このたびの兵庫県南部地震が発生し、神戸市をはじめとする阪神地域に甚大な打撃を与えました。その復興のメドもたっていない状況に大変心を痛めているところであります。

日本商工会議所としましても、被害地域の経済活動を速やかに復興させるため、1月19日と3月11日の2度にわたって、緊急要望を関係方面に提出いたしました。今回の商工会議所はもとより青年部の皆様方とも一体となって、一日も早い復興を支援してまいりたいと存じます。

さて、ご承知のように、わが国経済社会を取り巻く環境は内外ともに大変厳しく、中堅業態が山積しております。"こうした中で、地域の総合経済団体である商工会議所が地域経済界のリーダーとして、会員や地域社会のニーズに対応した事業を積極的に推進することが強く求められております。商工会議所活動の一翼を担う青年部の皆様方には、"豊かな地域社会の実現に向けて行動するのは、自分たちに課せられた責務である。"という信念を強くもって、若さと行動力を大いに発揮し、青年部活動に取り組んでいただきたいと存じます。青年経営者に対する期待と評価が年々高まるなかで、現在312商工会議所のうち297カ所に青年部が設置され、全国で約5万人のYEGメンバーが次代を担うリーダーとして活躍しておられます。平成7年度におきましては、社会会員を中心にこの全国に広がる人的ネットワークを十分に活用し、積極的な青年部事業の展開を通じて、全国各地の青年部活動の支援に大いに成果を挙げられますようご期待申しあげます。

築こう、YEG連携軸

平成7年度商青連　会長　辻　正敏

変革や混迷・不透明が耳慣れた言葉となり、不信や不安という空気が私たちを覆うようになってかなりの時間が経過しました。こうした状況から抜け出すためにいろいろなことを考えられましたが、新しいシステムはないか、完をもっと高揚することの出来る方法はないか、将来のために、21世紀に生きるために、そして次代を担う私たちの子孫のために、しかし、いくら考えても「考え」のメカニズム自体にではないでしょうか。ただ、今は、もっと大きな視野で、地球とか、世界とかを踏まえた上で、日本を、私たちを考え、変えていくことが必要です。無反をもって大胆に、思い切って新しいそれは、経済人である私たちの手で新しいシステム、枠組みを組み出していく時が来たのです。いよいよYEG（青年商工会議所青年部）の出番です。

私たちYEGは、各地でいろいろな活動を繰り広げて来ました。それらはその地域、YEGを取り巻く歴史・背景に育まれたものであり、地域に根付いたものです。活動は既に実績となり、その実績は、今後ますますYEGの活動にとって重要になると確信します。私たちは、出会いを求めていろいろな所へ出掛け交流を深めてきました。これからは、自分たちの実績に誇りをもち、より広く発信し、受信し、他と手を結んでいかねばなりません。出会いから交流、交流から連携です。そして更に大きな、地域の新しい動きを産み出す強力な人的経済的連携体系「YEG連携軸」を築き上げるのです。時代を切り拓くキーワードは広い視野に立った連携なのです。

人にはいつも、思いがあり、「夢」があります。その実現に向かって目標をしてきた私たちが、更に感性を研ぎ澄まし、信念を持ち、自律した行動を起こす時、時代は拓かれると信じます。

「YEG一瞬の見せどころ」それは、今です。

平成7年度商青連役員

（敬称略）

商青連役職	氏名	所属
会長	辻　正敏	三重
副会長	松田　芳郎	青森
	賀来　敏夫	秋田
	角口　勝彦	新潟
	向井　俊夫	長野大島
専務理事	石原　信忠	福岡
ブロック代表理事	仁志　克紀	北海道
	新関　敦郎	宮城
	河野　誠	山形
	青柳　新治	福島
	飯塚　清志	茨城
	保田　勝弘	栃木
	後藤　敏夫	群馬
	鮫島　哲郎	埼玉
	佐藤　哲郎	千葉
	加藤　和彦	神奈川
理事	大西　栄	富山
	信田　正弘	石川
	薄田　雄一	福井
	佐藤　英一	岐阜
	鈴鹿　和夫	静岡
	三浦　左右	愛知
	吉原　幸一	三重
	平田　秋夫	滋賀
	山脇　宗夫	京都
	野沢　勝彦	和歌山
	伊藤　雅章	鳥取
	野沢　勝彦	島根
	大村　勝利	岡山
	花岡　日出夫	広島
	大河　隆	山口
	長谷川　義信	徳島
	小新　義信	香川
	北川　哲司	愛媛
	清田　純一	高知
	岡井　清	福岡
	小木曽　修	佐賀
	重岡　清美	長崎
	門　清美	熊本
	鹿毛　一行	大分
	羽鳥　正弘	宮崎
	津留　昭司	鹿児島
	清水　信司	沖縄
	野村　彰	青森
	佐藤　秀	秋田
	櫻田　丹	山形
	中村　正	福島
	久保　栄	茨城
	松尾　正治	栃木
	香田　稔	群馬
	橋本　宏	埼玉
	伊方　宏	千葉
	川北　金光	東京
	村田　金光	神奈川
	新宮　一郎	新潟
	大谷　一郎	富山
	鈴木　一郎	石川
	若宮　一郎	福井
	高橋　一郎	山梨
	石井　一郎	長野
	松山　一郎	岐阜
	亀田　一郎	静岡
	中村　一郎	愛知
	久保　一郎	三重
	伊方　一郎	滋賀
	佐藤　一郎	京都
	佐藤　一郎	大阪
	佐藤　一郎	兵庫
	佐藤　一郎	奈良
	佐藤　一郎	和歌山
	佐藤　一郎	鳥取
	佐藤　一郎	島根
	佐藤　一郎	岡山
	佐藤　一郎	広島
	佐藤　一郎	山口
	佐藤　一郎	徳島
	佐藤　一郎	香川
	佐藤　一郎	愛媛
	佐藤　一郎	高知
	佐藤　一郎	福岡
	佐藤　一郎	佐賀
	佐藤　一郎	長崎
	佐藤　一郎	熊本
	佐藤　一郎	大分
	佐藤　一郎	宮崎
	佐藤　一郎	鹿児島
	佐藤　一郎	沖縄
監事	中山　敏雄	静岡
	佐藤　幹	三重
顧問会議	清水　一郎	静岡
	尾崎　一郎	三重

初の女性研修も開催！

震災乗り越え、京都で中央研修会

第12回商青連中央研修会が、厳冬の2月、古都京都にて開催させていただき全国1084名に及ぶご参加を頂き、無事終了いたしました。本当にご参加頂いた方には、何かと内方の不手際もあるなか、ご協力を賜り衷心より御礼申し上げます。

一時あたかも、関西では戦後最大級の阪神大震災が発生し、一時は開催も危ぶまれましたが、被災者への熱きエールを込めての開催でした。復旧には幾多の困難と問題があるかと予想されますが、微力ながら、我ら商青YEGも近隣にあって今後もを援をしてゆきたいと決意しております。

さて、今回の中央研修会では地域経済を担うリーダーとしての資質の向上と、豊満の高揚を図る場を提供し、如何におもてなしの心でお迎えできるかを、京都のスタッフと、商青連の研修委員会の方とで、考えて参りました。主幹という立場をわきまえながらも、京都民のもてなしをおりこませて頂いた事に感謝の気持ちで一杯でした。

交流と連携もテーマに広瀬会長の、基調講演、田中先生の講演、そして、パネルディスカッション、分科会を行いましたが、この2日間の研鑽が、これからの一年間の青年部活動の方向ずけに役にたてて頂ける事をただ願う次第です。又、交流会では京都という地域を少しでも味わって頂ける手はずと致しました。そして、京都YEGもこうした準備を進める中、全国との交流と連携を図り、又一参京都YEGのメンバーの連携と、組織力のパワーアップが図れたと確信しております。最後に、各委員会のスタッフの皆様には心より御礼申し上げます。

最後に、本研修会にご協力いただいた京都青連はじめ関係各位の皆様方に、感謝申し上げますとともに、厚く御礼申しあげます。

有難うございました。

（実行委員長・石原義雄）

第14回 商工会議所青年部全国大会・長崎大会

長崎の参加ありがとう！

交流・ふれあい"見聞学"

全国各地より29443名の登録をいただきました。まずもって本当にありがとうございました。津の大会で33000名を越える登録でしたが、バブル経済がはじけた1994年の経済状況にしては、たくさんの方々に長崎まで来ていただいたと思い大変感謝しております。

登録数よりも登録してくれた単会が303あり、商青連加盟の81%はこの大会に参加するようになったことが、商青連の活動が少しづつでも全国的に広がっている証しではないでしょうか。

ただ、主管をいただいた立場からして、一つ残念なことは参加・不参加の意思表示がなかった単会がかなりあったことです。

全国大会の主管をするにあたり以下の3点を注意して接待しましたが、おおむね上手く表現できたと自負しております。

1つ目は、1934年という時代背景を充分認識したいということでした。キャラバン活動・連盟団結そして、大会当日でも、いろんな「ふり・ふり・ふり」を省くことを心がけました。青年らしく過去の慣例や垂涎きにとらわれず合理化・簡素化できるところはしたつもりです。

2つめは、接待地として長崎らしさを充分アピールできないかということです。懇親会における和・華・麗の料理や、武偽のプロローグでの平和メッセージなど、また、もてなしの心を表現したナイトマップやナイトインフォメーションなどは、長崎らしさをアピールすることができたと自負しております。

3つめは、主催者と主管の立場を明確にしようということでした。

このみも主催者・全国商工会議所青年部連合会長の宣言する全国大会が表現できたものと信じております。しかし、細かい点でいろいろ皆さんに御迷惑をかけた点があったようです。充分に反省材料として大宮さんに申し伝えたいと思います。

全国の皆さんの御参加の御礼をきせていただき、大会の報告とさせていただきます。

（大会会長・松田祐哲）

義援金申し込み状況

（平成7年2月15日現在）

「三陸はるか沖地震」「阪神・淡路島大震災」における日本商工会議所、全国商工会議所婦人会連合会、全国商工会議所青年部連合会の義援金総額は

137,766,254円

となりました。ご協力ありがとうございました。

義援金贈呈先及び金額は下記の通りです（1億4000万円の見込み）。

■神戸商工会議所（1億円）　■八戸商工会議所、西宮商工会議所（各1,000万円）　■尼崎商工会議所（600万円）　■豊中商工会議所、明石商工会議所、伊丹商工会議所、洲本商工会議所（各400万円）

阪神大震災救援対策室を設置

今回の「阪神・淡路大震災」では、兵庫県を中心に大きな被害がでました。

京都で開かれた中央研修会でもこの問題が取り上げられましたが、今後、長期にわたる復興支援が必要なことから、兵庫県連では加古川商工会議所に全国のYEGからの問い合わせ、情報交換の窓口を設置しました。

支援のお問い合わせは―

●兵庫県商工会議所青年部連合会
「阪神大震災救援対策室」
（WE LOVE KOBE救援対策室）
〒675 加古川市加古川町寺ノ口527-5
加古川商工会議所青年部（担当／大松）
電話 0794-24-3355

「歴史を勉強し、若さを生かせ」

稲葉興作・日商会頭、商青連役員と懇談

稲葉日商会頭が青年部への期待を大いに語った。日本経済が本格的な不況脱出の糸口すら見えず、構造転換を迫られるなかで、これからの青年経済人が、いかに志すべきか、いかに行動すべきかを。東商特別会議室は熱気に包まれました。

稲葉会頭の就任後初めての懇談会が開かれたのは、昨年10月11日。商青連側から出席したのは佐藤善三郎会長以下約40名でした。

はじめに、佐藤会長から「私たちは、この日をとれだけ楽しみに待ったことか知れません」と稲葉会頭へのあれが述べられ、商青連の現状についての説明がありました。

これに対して、稲葉会頭からは「青年部のメンバーと親しくお話しができる機会を待ち望んでいます。今日は時間もあまりありませんが、きたんのない話し合いをしたい」とごあいさつがありました。

商青連に対しては①全国新組織である女子、ヨコのネットワークを活用してほしい②若さを大いに活かしてほしい③日本は戦後の苦難から立ち上がり、今日の繁栄を築いたが、そういった歴史や過去についてしっかりと勉強してほしい―と期待されました。

竹内豊副会長からは、「内外協和会、産業の中興化、対アジアとの経済関係のありかなどについての質問がありました。

これについて、稲葉会頭は「大きな問題だ。人件費など製造コストが高くなり、日本の企業はどんどんと海外に出て行く。アジア地域では（日本企業に）約11万人の雇用者がいる。日本国内で雇用が減るのはある意味では当然のことかもしれない。容易ならざる事態だ。しかし、日本は高い技術水準を保有して、さらに改良して行くことしかあり得ないと思う」と語りました。

特に、中小企業が生き残るには、「アメリカのようにベンチャー企業が活発になるよう、規制を撤廃する必要がある。資金調達の制度も遅れている」といった新産業革命の必要性を指摘しました。それ以上に大切なのは「部下を育て、鍛え、人を育て、そして良いパートナーを見つけるといった人材育成の問題が大きい。優人が真似のできない技術を磨き、システムも開発することが、と、自助努力を版きには訴えないことを強調しました。

最後にわが国では「明治から変わらない行政制度が続いているが、日本全体を一つの有機体として運営すればいいと思う。そういうことで、商工会議所は道州制を提案し、議論もしている。事業連携について、一番大事なものは情報だと思う。地域をよく知るものが集まり、情報の流れをスムーズにすることだ。若い諸君らの責務でもある」と締めくくりました。

静岡YEGに最優秀賞

平成6年度会報コンクール

商青連の加入全部会を対象にした「平成6年度商工会議所青年部会報コンクール」が行われ、2月の会員総会の席上、入賞作品の表彰がありました。

今年度の応募は37点。昨年より何本に絞り切られたあと、学識経験者を交えた審査が行われました。

その結果、最優秀賞には静岡YEGの「VOICE」が選ばれました。賞品は創刊号ながら企画力、レイアウト、記事の内容が抜群に優れており、高い評価を得ました。また、その他の入選作品も青年部らしい工夫が盛り込まれ、いずれも秀作ばかり。

会報コンクールは今年度で4回目を迎えましたが、年々レベルが高くなっています。会員相互のコミュニケーションの場として活動の内容を紹介している内容がほとんどですが、地域で定期的に配布されているものもあります。

その他の入賞作品は別表の通り。

（広報委員会）

平成6年度商工会議所青年部会報コンクール入賞作品

賞	青年部名(県名)	会報名
最優秀賞	静岡（静岡）	VOICE
優秀賞	鹿児島(鹿児島)	おーい
	徳島（徳島）	RANPOO(蘭風)
アイデア賞	佐世保(長崎)	しっとっと!?
ユニーク賞	川口（埼玉）	Immovation
	足利（栃木）	A-YEG
努力賞	帯広（北海道）	O2
	奈良（奈良）	なら太鼓
特別賞	浜松（静岡）	The next
	鈴鹿（三重）	CHALLENGER

積極果敢にチャレンジ!

商青連全国会報コンクール最優秀賞を受賞して

静岡商工会議所青年部

このたび、商青連の全国会報コンクールで最優秀賞を受賞いたしましたことは、身に余る栄誉であり、心からお礼申し上げます。

さて、当青年部ではこれまで会報を発行していませんでしたが、「平成7年度に『第15回青年部関東ブロック大会』を主管することが内定しており、この機会に青年部の対外PRとメンバーの会議高揚を図ることを目的に、会報の発行を本年度事業計画に掲げました。

具体的には広報渉外委員会（事業委員長は会報の表紙になっている佐野保夫君）が中心となって設計づくりを行い、①会員相互のコミュニケーションを図ると同時に青年部への理解を深めるもの、②会員ができる限り参加できる記事内容とする、③静岡の知性とセンス、行動力を全国にPRできるもの等を課題に取り組みました。

特筆可能の「YEGのアイデンティティを探る」は、1Cをはじめ諸団体が多い中で、静岡YEGの行動理念を改めて考えてみるという企画で、法人会青年部・JCとの座談会、会員イメージ調査、YEG宣言の解説という3部構成。会員の多くが意識して依頼体にも関心していることから、様々な団体の調整役を果たしながら企画の発展を期待として、地域社会の活性化に積極事業にチャレンジしていくと結論づけました。

委員会メンバーの知恵と汗の結晶が、今回最優秀賞という文字通り最高の形で報われ、今後の大きな励みとなりました。

本当にありがとうございました。

（会長　大石智二）

特集 全国各地の青年部活動レポート

"明日への創造　地域に挑むYEG"

異業種・同業種交流そして地域連携軸…交流こそYEGの原点。
ネットワークづくりが、若き企業家集団であるYEGの課題です。
変革の時代を、それぞれの地域で奮闘する青年部は、たくましく切り開こうとしています。北から南から寄せられた青年部レポートです。

Jリーグの夏季合宿を恵庭に

恵庭商工会議所青年部　北海道ブロック

現在、当青年部では、恵庭市の恵まれた立地条件を活かし、Jリーグの夏季合宿の誘致に向け、運動を展開しております。

このためには、芝生のグランドが最低2面必要とされておりますが、当市には1面もないが現状です。効果的に利用出来る多目的広場を建設すると共に近隣市町と連携を計り道中圏をJリーグの合宿のメッカにと夢を膨らませています。将来的には、サッカーだけでなく広く全国、全道規模の各種大会の誘致も可能となり、人的交流及び経済的効果が期待出来るものと考えております。

そして、私たちのホームスタジアムで、日本の一流プレイヤーの試合を実現させ、次の時代を担う子供たちにも間近でみてもらいたい。そのためには、私たちが声を集め、力を合わせて、それを形にしていくことが大切ではないかと思います。

「恵庭に芝生のグランドを！」を合言葉に、市民の署名を通して関係機関に強く働きかけ、実現へ向け、行動を起こしています。

F−1通じ「出会いふれあい」

鈴鹿商工会議所青年部　東海ブロック

若者の街、鈴鹿。その代表とも言える「FIA F−1世界選手権の日本グランプリレース」が鈴鹿サーキットで開催されています。このビッグイベントに合わせて当青年部では、サーキット園内や周辺の主要幹線道路、駅などにウェルカムの気持ちを込めて各所にのぼり旗を上げたり、市内183店舗の協賛店や鈴鹿市内一円で「出会いふれあい情報マップF−1特集号」10万部を配布しました。

レース開催中の十一月四日から3日間は、サーキット園内ワッピーパレー広場で「MIE・SUZUKA INFORMATION」ブースを設置し、三重県の観光案内ビデオの放映やポスターによる観光地や産品の紹介をしながら、来場者に対しアンケート調査を実施し、ご協力を頂いた皆さんには抽選で地元の産品をプレゼントし、鈴鹿とのふれあいを楽しんで頂きました。

又、サーキットコース内ヘアピンカーブにUみえ・すずかVのWELCOMEの看板を設置し、メディアを通じて鈴鹿発「出会いふれあい」の熱きメッセージを国内を始め、世界へ向けて広くアピール出来たのではないかと思います。

「商工まつり」の中核的存在

和泉商工会議所青年部　近畿ブロック

当青年部は、昭和53年7月和泉市商工会青年部として発足し、平成6年4月商工会議所移行に伴い、和泉商工会議所青年部として新たにスタートしました。現在の会員数は80名で組織・総務・研修・事業の4委員会から構成されています。

主な事業としては経営に関する研修会の開催をはじめ、地域振興事業、福祉推進事業等数多くの事業を実施しております。中でも、地域振興事業として、毎年秋に開催しております「和泉市商工まつり&都市緑化フェア」も、今年で17回目を迎え、商工まつり実行委員会の中核的存在として企画、運営しております。

2日間にわたって地場産品の出展や地元商工業者による出店、市民参加のフリーマーケット等によって地場産業をアピールしています。イベント内容も豊富で、園児による鼓笛隊、小学生による一輪車の演技等、また昨年は宮川大助・花子氏の漫才、ビンゴゲーム大会で盛り上がり、大人から子供まで楽しめる「まつり」として、毎年数多くの市民に親しまれています。

これからも、青年経営者としての資質の向上と会員相互の交流を通じて、会員一同多彩な活動を展開していきたいと思います。

"つがる産業博'94"を終えて

弘前商工会議所青年部　東北ブロック

築に向けて、我が青年部特別委員会が昨年4月より走り回りました。その結果、県内より26町村の参加は今までにない快挙であったといえます。11月3日より4日間、約3万人の人々で賑わう産業博となりました。開期中、お加町村懇談会を設け、期待や要望を語合し、各々が単に参加ではなく自分達で創造する産業博となるよう仕向けました。地方横軸ネットワーク構築の元年にふさわしい事業となった訳です。

来場者に満足して頂くのはなかなか面倒でした。また、中身を充実していくのはもっと大変です。しかし、行政、民活、我々が各役割分担をきちんと決め、相互の信頼を深めれば進歩度が早くなります。この産業博も行政主導、或いは民活主導だけでは、こうはいかなかったはずです。過去3年間の行政と民活の本音の会議が、今ようやく結実したといえます。今後は最終目標である、仮称「りんご世界博」に向けて更なる躍進を祈っています。

（実行委員長・鈴木康之）

津軽で行う産業博を提案して4年目を迎えます。市、商工会議所、農協を主体とした協議会も全体の流れがスムーズになってきました。今年度は「明日への創造」をメインテーマに近隣市町村の横軸ネットワークの構

スポーツ文化の創造を目指して

平塚商工会議所青年部　関東ブロック

思えば平成5年の夏"ペルマーレ平塚・Jリーグ入り絶望的"とマスコミ各社の報道から1年半余り。昨年のJリーグ後期ニコスシリーズでは2位、元旦に行われた天皇杯では堂々の優勝。新聞の紙面に「平塚」の2文字が登場することは我々YEGもさることながら、市民に街に対する誇りと大きな感動を与えてくれることは確かです。

我々平塚YEGは、ペルマーレ平塚の支援活動を行うと共に地域のスポーツ文化の向上に寄与すべく「小学生駅伝競走大会」を毎年実施。市内のサッカー、野球、バレーボールなどのチームの子供達が1本のタスキに全力を託す。参加チームも当初40チーム余りだったのが、今では100チームを超える規模の大会となりました。その陰には市体育協会、商協等々の支援があったからこそとも言えます。

スポーツと地域一見何の関連性もないものが街を大きく変えていきます。平塚YEGは、いつまでもその担い手でありたいと願っています。全国YEGからの我が街「平塚」へのお越しをお待ちしています。

10周年で、市民にふるまい鍋

今治商工会議所青年部　四国ブロック

今治商工会議所青年部創立10周年記念事業・式典・懇親会を11月5日に開催しました。

記念事業は、本町1丁目商店街で、来島の海の幸をふんだんに盛り込んだ来島水軍鍋2千人分を市民にふるまいました。

会場には直径1・5メートル、高さ1・3メートルの大釜を据え、タイ100匹、クルマエビ2千匹はじめ、厚揚げ、サトイモなどを、今治郷土料理普及協議会の協力により調理しました。

昼前から買物客や学校帰りの小中学生が列をなし、約2時間で2千人分が底をつきました。

そのほか、常盤町2丁目商店街では、11種類の花の種6千袋とタイ米のポップライス千袋を無料配付しました。

午後4時からは、今治国際ホテルにおいて記念式典を開催し、来賓、県内外の青年部メンバー、青年部シニアクラブ、現役会員など約200人が出席しました。式典では、矢野会長の挨拶、来賓祝辞の後、10年の歩みのビデオ上映、歴代会長への感謝状贈呈があり閉会しました。

懇親会では、今治の海の幸を中心にした料理と、水着美女によるアトラクションで会場は盛り上がりました。

「大名行列」を復活

柳井商工会議所青年部　中国ブロック

昭和63年3月商工会議所8番目の息子（部会）として、青年部は誕生致しました。

我々青年部のモットーは、何事も「まあやってみるか、結果はその後！」と、一見いいかげんなような、トライ精神です。そんな我々の主な活動は次の通りです。

①柳井天神春祭り・大名行列の実施。古くより行われていた大名行列が、種々な理由で3年間中断していましたが、平成5年に青年部が復活させ、今後も継続して行く。

②隣接する4町を中心に、定期的な親睦会を、持ち回りで開催し、何事も遠慮せずに言い合える関係作り。

③柳井祭り、柳井金魚ちょうちん祭りなど、他の祭りへの積極的参加と手伝い。

④まちおこし、市町合併に関する研修を、各方面より講師を招き例会として開催。

⑤青年部の本分である、経営者・次期後継者育成の研修。柳井経営道場や、青年部関係者による「我が経営を語る」等の例会開催。

⑥この5本柱を通じて、得られたものは、人と人との結び付きであり、逐う前に何にでも積極的に挑戦する姿勢です。

最後に、柳井の徳田俊夫が、平成7年度、中国ブロック代表理事を勤めさせていただく事となりました。皆様の、暖かいご支援と、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

出逢う喜びを再発見！

鹿児島商工会議所青年部　九州ブロック

こんにちは、みなさん鹿児島の青年部の私たち、経営情報委員会は、「経営をテーマに、毎月1回地元で現在活躍されている経営者の方を囲んで勉強会を開いています。

ふだん、なかなか接点のとれない方と実際にヒザを交えてのお話しに、会員が非常に刺激され、自己啓発のきっかけになっています。そして、ざっくばらんな雰囲気のなかでの質疑応答が、講演者と会員との継続的なおつきあいの、出逢いの場となってゆくと、会員が楽しみにしています。

各月ごとのキーワードは4月は「人に喜びを与える」5月は「大きな志をもつ」6月は「運命に徹する」

経営とは、事業運営のみならず、経営者自身の人格形成の場であり、その実践に他ならないものであることを実感しています。

異質なものに出逢うことは、私たちひとり一人のなかにある、現在は本人も気づいていない世界を、うすかわをはがすように1ページずつ開いてくれるものだと、確信しています。

これからも、地元で活躍される経営者の方と会員との、出逢いの場をつくってゆきたいと思います。

このご縁が、一生涯のおつきあいになれば最高！

好評！市民に開かれた講演会

五泉商工会議所青年部　北陸信越ブロック

当青年部では、設立以来、活動目標にもあるように、青年経済人としての自己啓発と、自己修練をはかるとともに、地域の人々に青年部活動のPRをかねて中央の著名講師を招き公開講演会を開催しています。過去には、野村克也氏、無着成恭氏、新堀俊明氏、笹沢左保氏等を招き、部会員はもとより多くの市民から聴講していただき好評を博しています。

今年度も、担当委員会で限られた予算の中で講師選びが始まり、喧々諤々意見が出された中、メンバーの知人の紹介で、11月19日、フジテレビ「スーパータイム」キャスターの露木茂氏に依頼する事となり、その後メンバーで手作りのポスターを作成したり、チケットを配布するなどしました。当日は、200人を超える市民の皆さんが集まり「テレビ時代を語る」をテーマに、テレビ報道の裏話しや、コミュニケーション媒体としての役割や社会に与える影響、情報の見分け方、テレビとの付き合い方などの講演を聴き大変参考になり、成功裏のうちに終了しました。今後も、メンバーの自己研鑽と地域活性化のため継続して行きたいと思っています。

情報の流れをより適格に

道府県連活動状況調査より

本年度、商青連総務委員会では、道府県連（以下、県連と呼ばせていただきます）の実態調査を行った。総会から県連ブロック東西中日本一商青連という情報・行動の流れがあるが、要となるのは県連であり、県連に集約し、県連から分散する組織運営が自出自在にできなければ、迅速な動きはとれない。

例えば、48ヶ所会ブロックとして、平均48事会への連絡を一人のブロック員が担当できるはずがない。今回の調査資料からぜひ、第1に県連の窓口を一本化し、明確に示して戴きたいことです。各県からの商青連活動報告・県連会長・幹事連絡員、それぞれの情報認識を統一化していたがないと、誰に聞いていいのか、伝えていいのか分からない状態になってしまう。調査書を見てもらえば分かるように、県連事務局の設置場所等は方法を考えても、標です。

次にご理解戴きたいのは、県内各単会の行事予定と、商青連の行事予定を熟知した上で、県連総会・会長会議・協議会等のリクエストをタイムリーに組み立てる必要があることです。県連の年間行事予定・中央部会・全国大会・ブロック大会への出席状況等、時期を間違えると、スムーズな流れにならない。私自身が、本年度の高知県連会長を兼務していることから、他県連の会員や活動状況を知り、改善すべきところを知りたいという気持ちから、この調査に当ていたしました。もう一方の調査から得た目的としては、来年度から始まる商青連の組織強化に伴い、4人の専任員、8人のプロック長に各県連の実情を把握してもらい、活動の参考として、地域にあった計画を実行してもらうためです。

調査結果から見ると、ブロック別に見ると、西日本が240回の活動があること、出向者の補助金にばらつきがあること、行政や関会からの助成金の有無など大きなバラツキが見られる。

県連の存在に応じて現状があるわけだから、批判する気もないが、今後ここの県連に対して援助をする事が良いのかを積みとってもらいたい。

総会に報告すると、議長に調査の途上で総務委員各位が感じとった事を盛り、次に今県連の収支予算の比較を載せ、会則・予算・役員会・事業・レクレーション等に、活発と言われる県連の例を列挙し、最後に生データー比較表でまとめた。

総務委員会のメンバーは、副委員長に長崎県連委員長松田博信氏、委員に出形YEG新関方則君、福岡YEG山口雅三君、鹿児YEG末松宏之君、中津YEG東昭英一君、熊田YEG小松義昭君、幹事に時間のかかる生データーを担当してくれた姫YEGの市村法出夫君そして、私、高知YEG竹内豊の8名です。

委員長の私が断っている間、正副委員会議で抜けている型に、委員会メンバーが二転三転の論議を繰り返し、報告書が完成いたしました。委員会メンバーに感謝し、この報告書が県連活性化の一助となりますように祈念しつつ筆を置かせて戴きます。

（総務委員長・竹内豊）

三陸はるか沖地震 兵庫県南部地震

災害義援金についてのご報告

全国商工会議所青年部連合会
会長　佐藤　善三郎

昨年末の『三陸はるか沖地震』、さらに1月17日早朝の『兵庫県南部地震』は、甚大な被害をもたらす大惨事となりました。被災地の皆様には心からお見舞いを申し上げます。

このようななかで、日本商工会議所では、国に災害復旧の緊急要望書を提出し、全国の商工会議所を対象に義援金募金の呼びかけを決定しました。

商青連では、さっそく被災地商工会議所青年部に、お見舞いと激励文を送り、できる限りの支援を約束しました。

さらに、各地の青年部に、災害義援金の協力を依頼、日商、全国商工会議所婦人会連合会ともども全力をあげての支援態勢を取りました。

2月20日に義援金の取りまとめを行いましたが、災害復旧には、まだまだ長期にわたる取り組みが必要です。全国各地のYEGでは、それぞれ独自の救援活動を展開していただいていますが、今後とも商青連として、可能な限り支援態勢をとってまいりたいと考えていますので、一層のご協力をお願いいたします。

なを、今回の義援金募金に多大のご協力を賜りましたことにたいして、本紙上をお借りして心よりのお礼を申し上げ、取り急ぎご報告といたします。

ありがとうございました。

●商青連に寄せられた 災害義援金は

20,461,870円です（2月20日現在）

魅力ある組織（商青連）へ

組織強化委員長
小泉　光一郎

社会には数多くの組織があります。国家、商青連、会社やサークル、人間そのものも細胞の高度に結合した組織といえます。それらすべてが常に組織強化を計り活動しています。崩れる組織もあるが、むしろいつかは必ず崩壊するのが組織ともいえます。

組織の寿命は何年か定かではないが、商青連はまだ17年、組織としてはまだ子供の段階で、勉強も、体質も強化し成長してゆかねばならない時期といえます。各方面からも、まだ期待されていると思う。良く育つか、悪く育つか、成長が止まるか、未知の可能性があるからであり、大切な時期です。

次年度は組織改革が行われ、組織強化委員会が無くなります。最後の委員長となった私は、組織強化は永遠の課題と考え、専門委員会として消滅する事に一抹の不安を覚えています。

札幌、仙台、新潟、東京、名古屋、大阪、広島、福岡などブロックを代表する都市に青年部が実設、未加入であり、商青連は全国組織としての体を成していません。皆々に体験を願え、実力や魅力ある商青連とするために成り大都市青年部の参加が不可欠です。この課題を第一セクション」が推進するか現確にすべきと考えます。

今年度の下期、名古屋若鯱会、東海経済組織部と交流し、各々事情も理解しましたが、熱心に問題をかけてゆけば解決できる自信を得ました。目標ができ、課題が明確になり自信を持ってやれることが肝要です。商青連という全国組織が、良い方向に力強く成長することを祈ります。

翔生 Communication PLAZA

新設！ビジネス交流プラザ

こんな情報を伝えたい・聞きたい

このページは、会員の皆様の情報交流の場として設けられたものです。

昨年に開かれた長崎での全国大会でビジネス交流プラザは、多くの参加をいただきました。

そこで、今後は「埋生」の紙面を会員の皆様に提供し、全国のネットワークをそれぞれの企業活動に大いに活用してもらおうということになりました。

新製品紹介、販売代理店の募集などの営業活動や企業PR、また異業種、同業種の交流にどんどんご利用ください。

●地区申込方法

原則として官製はがきに①「新製品紹介」「販売代理店募集」「企業PR」「交流・談話」を明記のうえ②商品名（または会社、団体名）③セールスポイント「メッセージ」④連絡先「住所、氏名（会社名）、TEL」⑤青年部単会名、氏名」を記入してお送りください。

●送り先

〒100　東京都千代田区丸の内3-2-2-15、日本商工会議所中小企業振興部内、全国商工会議所青年部連合会「正報委員会」宛

●実施時期　今後

●実施締め切り

平成7年5月31日

●おことわり

本号で掲載いたしましたものは、昨年のビジネス交流プラザの情報をもとにしています。連絡、資料請求等については、直接、当事者同士で行ってください。

（商青連・広報委員会）

☆新商品

商品名	要項	連絡先	住所	電話番号
手延べ平生うどん	富士の伏流水と最高級小麦を使用 新製法による手延べ麺	㈱アイメン	沼津市青葉町19-5	0559-22-0545
イーエス製パーキング装置	業界一の駐車場システム紹介	㈱東山商会	長崎市出島町3-10	0958-29-1121

☆販売代理店募集

商品名	要項	連絡先	住所	電話番号
シャキット君	北国あきたのテクノ正業	㈱エムアンドエム	秋田市大町2-7-34	018-62-9307
人情屋台	人情屋台支部加盟店募集	㈱人情酒販	大宮市天沼町1-523-1	048-645-0865
ルークボックス	時間のシステムアップでもルークボックス	ソフトブレン工業㈱	浜松市馬郡町3762-22	053-448-3111
医療機器アルファーエックスキューブ	目と頭を爽快にする健康器	(有)タイケイ教育	大阪府東大阪市横枕町1387-335	0775-48-1926
カタログ販売	新たなカタログ販売で人気上昇中	STキッチフーズ㈱	新宮市緑が丘2-3-6	1736-23-1946
食品	海産物等の仕入れ先求む	㈱カネカ	福山県東山市小原326-4	0849-24-0850
コーヒー	自家焙煎コーヒーの卸販売求む	有アムル	福山県東山市伏見町1322	0849-24-3661
小型気功器	世界初小型気功器	㈱明伸	高松市新田町甲814-11	0879-43-0001
かつおたたき（冷凍）	日本一美味したたきとスズ入りたれ 東北、北海道地区販売店求む	土佐料理問	高知市用屋町1-7-15	0888-23-1388
シーカヌー輸入雑貨	代理店募集	㈱ロコーポレーション	静岡市八天町3-14	0557-22-0888
殺菌、脱臭装置	オゾンによる殺菌脱臭装置	㈱海研	長崎市鍋倉町819-11	0958-79-2212
ちいーず棒	FC加盟店募集	Kフーズ	別府市北浜1丁目15-8	0977-21-0818
レーザーポインタ	ミニ洋酒樽販売店募集	㈱バーボン	大分県津久見市新町9-3	0972-82-9039
かるかん、あくまき	かるかん一筋幹白所蔵使用 全国各地販売店求む	清盛屋	枕崎市西鹿篭12640	0993-72-8647

☆企業PR

商品名	要項	連絡先	住所	電話番号
和洋菓子	南紀産特産のりんごのお菓子 みちのくの味を伝えます	㈱ラグノオささき	弘前市百石町19	0172-36-8853
漬物	創業百年伝統の味をみちのくから	ハコシダ食品工業㈱	花巻市瀬口字洗沢121	0198-25-2529
菓子	塩竈桜の風雅を保した銘菓	丹六園	宮城県塩竈市宮町3-12	022-362-3518
無農薬シヒカリのカタログ販売	コメ王国新潟から全国へ発送	故屋商店	新潟県五泉市吉沢2-2-3	0250-42-2340
音楽制作企画	CD-LOM企画制作（音楽から商標まで）	㈱日本録音企画	埼玉県和光市白子5-5-3和光ビル	048-463-9456
刃物の商品	高品質刃物、各種特殊小型刃物 刃物でお困りの方はご相談下さい	長谷川刃物㈱	富山県魚津市西田第8994-2	0765-24-1511
菓子	富山湾だけのしろえびの唐揚げ 富山湾の味覚に案内します	㈱米田	新潟市松木385	0766-94-2081
水産練工品	瀬戸内のエビだけのせんべい 伝統技法によりすべて手作り	㈱浪久屋	観音市観音寺市町8829-1	0875-25-3579
醤油	百年の味をお楽しみ下さい	広瀬醤油㈱	高松市一宮町1818-3	0878-86-1761

同業種交流を考える

（商青連研修委員長・小谷寛）

商青連の目的は「交流と連携」であることが規約第1条に明記されています。

青年部相互の交流と連携は「国土無」「地域連携無」であり、個人相互の交流と連携は「近くの異業種」「遠くの同業種」が考えられます。

同業者は同じ商圏の中にあっては商売敵として激烈な競争の真っ只中にあるが、遠くにあっては、よき情報源であり有り難い仲間である。商青連に所属する会員のメリットとして同業種の交流を推進したいと考えています。

もちろん同業種交流は、それぞれの業界で勉強に行われています。しかも、それぞれの業界に青年部があります。

では、なぜ商青連で同業種交流が必要なのだろうか。

現存の同業組交流が、現在の業種のみを対象としているのに対して、我々の考える同業種交流は、事業化のため、新規分野に参入を希望する者にも門戸を開放しようと考えています。

商青連の同業種交流によって、その弊害になるなど懸念が起こることも期待されます。同業種交流の推進が地域に貢献する青年部（単会）に、より豊かなメリットをもたらす事を確信します。

活かせ全国ネットワーク

（商青連特別委員長・賀木新悦）

YEGがどうゆう団体ですかと問われれば、「自社企業と地域の繁栄のために行動する、若き企業家集団である」と答えます。

今年度、佐藤吉二郎会長が、事業計画の策定初に、商青連加入のメリットを打ち出したことは、YEGの活動の原点を再認識できたと思います。

やはりYEGは、経済とりわけ自社企業の発展あっての活動が大切であり、その手段のひとつが全国大会でのビジネス交流プラザの設置であったと思います。

全国のYEGの協力によりプラス100名を超えるブースができ、ビジネスの交渉が行われました。有意義な結果が得られ、参加者および長崎YEGに感謝を申し上げます。

今後、より以上に本青年ビジネスの交流ができる場の提供を商青連として取り組みたいと思います。

いま人口減少、円高等の問題で商店街の地盤沈下や空洞化など商青連環境は厳しい状態にあります。こうした時こそYEGのネットワークを活かせる場の提供が商青連の役割と考えます。

『直接交流・直接実感・彩の国――集えば多士彩々』

平成7年度全国大会は大宮市で

平成7年度「第15回商工会議所青年部全国大会」は首都圏での初めての大会として、埼玉県商工会議所青年部連合会主管のもと、大宮市において開催されていただきます。

大変歴史を有する関東平野のほぼ真中に位置する埼玉県は、人口673万人、首都東京の隣接県として人口が急増し、現在県内と全国一であります。そして、その商都として栄え「緑の都市」としてめざましく発展しているのが開催地の大宮市であります。

大宮という地名は、武蔵国一の宮・氷川神社を「大いなる宮居」とあがめたことに由来し、古社・氷川の門前町として、江戸時代には中仙道の宿場町として繁栄を続けてきました。

近代になり、鉄道の分岐点の重要な町として位置づけられ、東北・上越新幹線の始発駅となったことは多だ記憶に新しいことと思います。

その後、新幹線は上野、東京へとつながりましたが、第商都都市としてまた、政令指定都市へと「夢ひろがるまち大宮」を目指して、今、着実に歩んでおります。

この度、全国大会を主管されて頂く埼玉県商工会議所青年部連合会（塚青連）は、平成元年10月31日に「青年部」を発足し、現在16商工会議所中に14の青年部が設立され100%を目標に努力を致しており、会員数は千数百名にならんとしております。

組織発足時からの水平の「夢」でありました全国大会を実現出来ることをこの上なく喜んでいる次第であります。衆智と工夫をミックスしたこの「直接交流・直接実感・彩の国・集えば多士彩々」とし、首都圏で初の大会に相応しい感動のある大会を目指しております。

また、埼玉県は、平成4年11月14日「県民の日」に、埼玉県の魅力や個性を県内外にアピールするために、四季折々の色彩豊かな自然に恵まれ、産業・文化・学術などで発展する、多彩な県・埼玉県を目指し、県の愛称を「彩の国」と致しました。

その「彩の国」をとりいれ、第15回全国大会のキャッチフレーズを「直接交流・直接実感・彩の国・集えば多士彩々」とし、全国の約3万人に及ぶメンバーの生き生きとした個性を直接ぶつけあい、感じ合える感動度の大会としたいと考えております。

時代を担う青年経済人（若き企業家集団）が、この大舞台に一堂に会し、青年らしい柔軟な発想のもと相互研鑽に勤励することにより、「国際化・高度化・情報化」に対応する万策が模索でき、今後の方針を打ち出すことの一助となれば幸いです。

21世紀を目の前に控え、彩の国・大宮の地から発せられる人類への警鐘を含めた「宇宙からのメッセージ」にどうぞご期待下さいノノ鈴上座のおもてなしの心でお迎えを致します。一人でも多くのYEGの皆様のお越しをお待ちいたしております。

第15回商工会議所青年部全国大会が開かれる埼玉県大宮市。

「一年を振り返って」

平成六年度会長　佐藤　善三郎

「明日への鼓動　地域に挑むYEG」のスローガンのもと、全国各地を訪問させていただきましたが、各地でYEGの仲間が活発に活動されている姿を目見し力強く感じるとともに、多くの法会による友情と再たび感じております。

この一年を振り返りますと、団の内外を問わず政治、経済界までもが追い討ちをかけた一年でありました。

政治においては政界再編成、短期間での政権交代など新しいシステム、新しい秩序を模索しておりますし、また、一部においては回復しつつあると言われるもののいまだに出口からの光明を見い出せない状態が続いている経済界においても新しいシステムが求められております。

このような情勢を踏まえ地域において創造性を発揮しよう、行動を起こしていこうと全国各地の皆様と語りあっていたきました。

また、地域、ブロック、商青連という組織を再却単位、会員の皆様により身近に活用していただくにはどうすればよいか、全国ネットである商青連の要がりや情報を地域や企業に有意義なものとなるよう活動を進めてまいりましたが、それなりの成果はあったと思います。

しかし、今後もっと充実していかなければならないと感じております。

一昨年12月、新松のホリックで行われた第一回次年度役員研修会以来、15カ月間共に汗を流し支えていただいた組合長、事務、役員、日本商工会議所事務局の皆様の熱き友情とご協力に感謝を申し上げます。今後共皆様のますますのご活躍を期待しております。一年間本当にありがとうございました。

佐藤善三郎（熊谷）

大会会長　大村　勝利

1995年.11月16日(木)～17日(金)

■主催／全国商工会議所青年部連合会・日本商工会議所
■主管／埼玉県商工会議所青年部連合会
■開催地青年部／大宮商工会議所青年部

EDITER

皆様のお陰を持ちまして、どうにか産育を果たすことができました。今後は貴重な経験を有効に活かして行きたいと思います。

宮　正弘（東蒲）

商青連に2年間出向、本当に多くの仲間との出会いがありました。平成8年の全国大会開催地・奈良でお目にかかりましょう。

本出良一（奈良）

新聞大賞賞に応募し、情報を伝える難しさを痛感しました。商青連の皆様のご協力ありがとうございました。

吉田勝一（吉川）

商青連に2年間出向して1年。全国の皆様に「輝生」をお届けすることができました。多くの感動をありがとうございました。

西場仲一（桶生）

この出起を神輿すると高田俊氏、官民協産と続き、次代は宮地氏に思われます。だからこそ個性豊、個体の重要性を実感します。

時田芳文（熊谷）

皆に愛される「輝生」を目指したが、なかなか難しい。委員会のメンバーが1年ごとの交代では困難がある。

佐賀谷一（出雲）

今年、「輝生」の発行に携わることができ、同委員会の仲間、商青連のメンバーにご協力頂けたことを心よりお礼申し上げます。

佐藤吉男（春日）